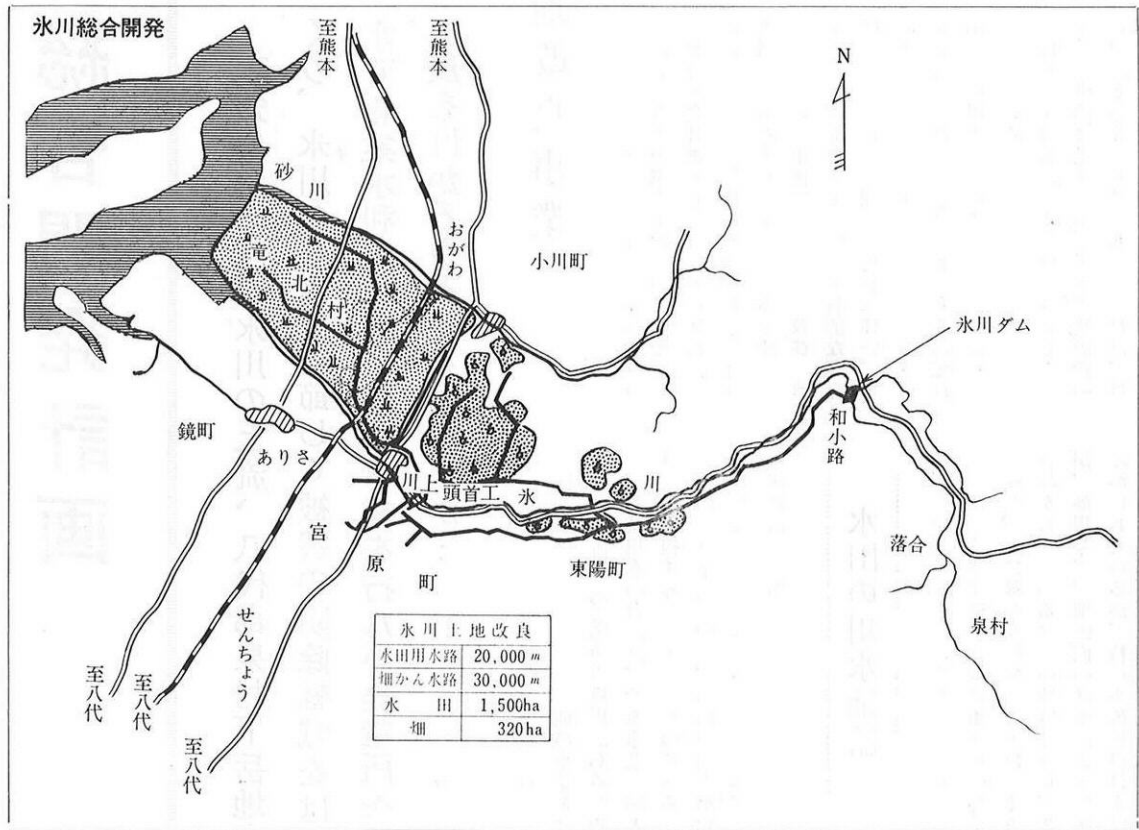


年々相当の干ばつ被害を蒙っておりま  
す。そこでこれらのみかん園三百二十  
を対象として、新設される氷川ダムを水  
源として畑地かんがいを行なう計画で、  
干ばつ被害の解消はもちろん、果樹特有  
の隔年結果もある程度解消して、生産の  
安定増大及び品質の向上を図ろうとする  
ものである。

事業内容としては、導水路約三十  
で、概算事業費は末端施設も含めて約四  
億円を見込んでいます。  
以上が計画の概要であるが、水田の用  
水補給と、畑地かんがいは若干性格が異  
っており、事業の緊急性、必要性も異な  
るものと考えられる。

そこで、県としては、特に畑地かんが  
いは、新規利水でもあり、ダムと施工タ  
イミング、更には経済効果の点とを勘案  
して、優先的に計画することとし調査を  
進めている。

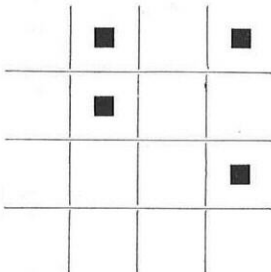
今後の事業実施の予定としては、畑地  
かんがい計画は昭和四十三年度、計画の  
地元説明、受益者からの事業申請、昭和  
四十四年度、事業着工（全体実施設計）  
の予定であり、水田の用水補給は畑地か  
んがい計画より若干遅れるものと考えら  
れる。これらの事業は、受益者からの申  
請により始めて事業着手されるものであ  
り、また相当の受益者負担を要するの  
で、県としても、受益町村、受益者に計  
画内容の検討をお願いして、早期着工を  
図りたいと考えている。（耕地一課）



位置	八代郡泉村大字下岳字 和小路
型式	重力式溢流型コンクリ ート堰堤
堤高	五・〇m（基準五四 〇m余裕二・〇m）
堤頂長	二〇九・〇m
堤頂幅	四・四m
堤勾配	上流面 一：〇・一 下流面 一：〇・八
堤体積	一〇〇、〇〇〇 m <sup>3</sup>
非溢流部堤頂標高	EL 一七九・〇 m
溢流部堤頂標高	EL 一七〇・〇 m
基礎岩盤標高	EL 一二三・〇 m
貯水池	
集水面積	五七・四 km <sup>2</sup>
湛水面積	三三・〇〇〇 m <sup>2</sup>
総貯水量	六、三〇〇〇〇 m <sup>3</sup>
有効貯水量	五、一〇〇〇〇 m <sup>3</sup>
利水容量	四、七〇〇〇〇 m <sup>3</sup>
堆砂量	一、二〇〇〇〇 m <sup>3</sup>
洪水時満水位	EL 一七七・〇 m
常時満水位	EL 一七六・〇 m
堆砂面	EL 一五六・〇 m
最低利用水位	EL 一五六・〇 m
利用水深	二・〇 m

# 不知火海干拓

千五百ターレクを淡水化し六千ターレクを干拓し、さらに五千ターレクの農地を造成し  
ようとする不知火海干拓事業は、その効果として年間農業生産粗収益が三十  
三億円を見込まれている。そして九州農業に課せられたわが国の食糧供給基  
地としての夢がいよいよふくらみつつある。



## 地区の概要

この地区は、東は八代平野、西は天草  
諸島、北は宇土半島にはさまれた約九千  
の海域である。背後地の八代平野は数  
百年前から自然陸化、あるいは人為的に  
干拓された約一万五千鈔におよぶ県下の  
穀倉地帯であり、また、さきには八代市  
を中心として新産業都市の指定をうけて  
いる県南の工業地帯でもある。現在、農  
業面では国営八代平野土地改良事業（実  
施面積七千六百六十七鈔、総事業費五十  
三億円）、緑川地区土地改良事業（計画  
面積八千四百十四鈔、事業費百九億円）を  
はじめとして、種々の基盤整備事業が実

施または計画されており、また工業開発  
面では、八代市地先における用地の造成  
（大島南地区）、八代外港の建設等が進  
められている。

この海域に流入する河川は、球磨川、  
氷川、砂川、大野川、大輪川、日置川  
等で、その流域は、約四万三千鈔におよ  
び、海底の土壌は、これらの河川から運  
ばれた砂土と、不的火海の潮流によって  
沈積した泥土からなり、地味は極めて肥  
沃で、平均水深も二層内外の遠浅な干潟  
をもち、全国的に最も干拓に適した海域  
として知られている。

## これまでの歩み

昭和三十二年頃から昭和三十三年度ま  
で、県単独事業として調査を実施し、  
「不知火海縮切干拓の構想」を策定し、  
農林省直轄調査の新規採択地区として要  
望したが、いろいろの事情から採択に至  
らなかった。さらに昭和三十四年から  
昭和三十六年度まで県費で調査を継続し  
（調査費六百一十八千円）、直轄調査採  
択の申請を行なった。昭和三十七年度に  
いたり予備調査地区として採択され（昭  
和四十一年度までの調査費二千五百万  
円）、昭和四十二年頃から本調査にはい  
る予定であったが、国の干拓行政に対す  
る投資効果の遅効性、投資額の膨大性な  
どの理由から、昭和四十二年の本調査  
採択は実現できず、引き続き予備調査地  
区として調査が行なわれている。このた

## 計画のあらまし

め県としては「不知火海干拓促進期成  
会」とともに計画の推進に努めている。  
戸馳島から八代沖の弁天島にかけての  
海口部約七千五百鈔を締め切り、周辺流  
域から流入する洪水の調節と、新しく造  
成する干拓地の用水確保のため、宇土半  
島南側約千五百鈔を宇土承水池として淡  
水化し、不知火町および松橋町地先の一  
部を含める約六千鈔を干拓し、約五千鈔  
の農地を造成するもので、総事業費二百  
三十三億円の計画である。なお、営農計  
画については、背後地を含めて高い生産  
性と大型機械化体系（協業または共同作